

中国南北朝・隋・唐初の地論・撰論の研究者達

—「統高僧伝」による伝記一覧表—

吉田道興

はしがき

さきに、駒大学院仏教学研究会年報第八号に中国唯識学研究の一環として「中国地論・撰論研究者の動向」を報告した。それは中国南北朝時代より唐初までの地撰二論の各研究者を主に『統高僧伝』を資料としてその講学と撰述を中心に年表と学系譜を作成したものである。この拙稿の伝記と共に合わせみると、おぼろげながら立体的に彼等の一面を垣間見ることができよう。

なお、平井俊栄先生は「中国三論宗の歴史的性格—中国仏教における宗派の成立をめぐる—」（駒大仏教学部研究紀要、第二四号所収）の論文において副題にあるように、中国仏教の宗派観念を考究されている。また、吉津宜英先生は「地論師という呼称について」（同上書、第三一号所収）の論文がある。まず拙論においてもこの二論文を充分考慮しなければならぬであろう。それを要約すると次のようになる。現在の日本的

宗派意識で当時の中国仏教史の各宗派を考えることはあまりにもナンセンスな誤りで論外であるが、便宜的に隋唐を境として学派と宗派の二つに類別することも注意が肝要である。

平井先生は、宗派と学派の（△宗▽の意味、経師論師の存在、また△衆▽などを解明され、結論的に三論宗について「後代の中国仏教の教判においても、常に学理として、思想の根源的義趣において説かれるのみであって、遂に中国において、如何なる仏教資料においても、宗派として登場することはなかったのである」と断ぜられる。これは地論宗撰論宗の場合も、ほぼ言いえよう。なお、これについては若干「初期地論学派における諸問題」として追求したこともある（「印度学仏教学研究」第二三号所収予定）。吉津先生も、むすびとして『統高僧伝』の記事（地論南北二道の分派・多数の地撰二論の研究者・慧遷の十地衆主勅任など）があっても、それらの人々を限定して地論師撰論師という視点だけで研究してはならぬ、という主旨を述べられている。拙論は、その両先生の論旨に沿って、

その延長線上にあるものに過ぎない。この拙稿・伝記の表を見て誰でも気がつくことは、大部分の人が一師や一經一論に拠らず、多師多學の傾向を呈している点でありましょう。所謂、學派仏教の特徴ともいうべき一面がある。多師多學が必ずしもよいとは言えぬが、目立って多師に従學した慧光や法上・慧遠・靈裕・曇遷・靖嵩などは行學共にすぐれた高僧と言えよう。當時は「七夏欲講涅槃」（中略）、八夏既登遂行禪境、漳滏伊洛遍討嘉猷、後於少林寺撰心夏坐」（道憑伝）や「聽法心猛委而南旋、夏聽少林秋還漳岸」（法上伝）とあるように、師を求めてあちこち行脚することが普通であり、また止住しても「毎年春夏立三方等般若、秋冬興坐禪念誦」（曇榮伝）や「正時撰論、晚夜雜心、或統解涅槃、或判銷四分、無損余暇」（淨願伝）と四季・昼夜をおかずに種々の行學に精進しているのである。また師資關係においても、受業師が必ずしも本師にはならない。勝れた師があれば、その受業師の方がその師の所に往くことを勧めることもあった「吾為汝緣、吾非汝師、可往勝上所也」（靈裕伝）。特に多彩な人物として代表的な慧光は、統高僧傳中、明律篇に分類されている如く四分律の祖師として、また「道寵伝」には地論南道派の祖として、更に華嚴經傳記には華嚴經の祖師の一人として挙げられている。涅槃經の祖師としても僧範・慧順などに教授したことが知られる。更に少林寺に

て撰心したり、晩年には「願生仏境」とある如く淨土的信仰もあったのである。単に地論南道派の祖師のみではない。要するに彼等を地論師または撰論師として限定することは、他の教學や信仰を無視した一面的なものになり、仏教者としての全体像を把握することはできないことになってしまっている。それを考慮しつつ、小論は一般的に称される唯識法相宗の先驅者の部分をクローズアップして掲げたに過ぎない。従って同一人物が他の經論研究者として取り上げられることも当然可能である。なお、楞伽經の研究者にもスポットを当てる必要があるが、今回は紙面の都合上、残念ながら見送った。

この伝記の表は『統高僧傳』中、地撰二論をそれぞれ受講・講説・撰述した研究者達を抜き出したものである。人選は玄奘歸國（六四〇年）以前の訳經家、すなわち主に菩提流支・勒那摩提・仏陀扇多などの所訳唯識諸經論の研究者に限った。玄奘の招來した新訳諸經論は、その以前と以後とは大いにその傾向を異にして受け取られる結果になっている。その点を論証するには他の機会にゆずらなければならぬが、一応区切るの整理をする上では便利であると言えよう。

なお、「撰論」は、ほとんどが真諦訳と思われるが、「十地」は經か論か、判別のつかないものはそのままにして載せた。『統高僧傳』中、「十地」または「撰論」の文字が見えても

伝が簡略すぎたり、その受学が不詳であったり、師資関係が不明である人物、例えば道謙(巻一四)・普明(巻二〇)・慧序(巻二四)・円超(巻二六)・法周・法巖(同上)などや新訳の無性積撰論の研究者である功迥(巻一三)などは除いた。ただし、靈詢の伝そのものに十地もしくは地論の文字は見えないが、慧光の上足であり、「緘旨秘教備知通塞、雖博知群籍、而擅出維摩」の「群籍」の中に、当然それが含まれていると見做した。また、三国論師僧祭の伝に「著十地論兩卷」とあるので、一応掲載したが、この「著」の文字は撰とは勿論意味が違うので世親の地論ではなさそうである。十地に関する彼の注的研究論文であろう。彼には「十種大乘論」の著もある。靈詢と僧祭については更に検討を要す。

凡 例

一 僧名 ごく便利な五十音順に並べた。ただし、曹毘は清信士である。なお、慧順と恵順、玄琬と慧琬、智愷と慧愷、智閏と智潤、智敷と智敷、法侃と法侃は同人異名として、それぞれ前者の字に統一した。また中には独立した伝記がなく、他の伝記に拠ったものもある。曹毘・智愷・智敷・道熒・道尼・明及・法楞・融智など。

二 生卒 年代は西紀にした。伝にはなく師資関係にある他の伝記を参照して大体割り出されても不詳のものは、? で示した。二ケタの数字は年令である。なお、慧光の生卒年は靈裕伝

より割り出したものであり、異説もある。

三 師事 受業師・教授師・本師などで師資関係にある師匠である。慧遠のように年下の曇遷から「撰論」を聴講することもあった。() は不明、または補足したものである。

四 行履 行学・講説・撰述は、その経論の略名を記し、信仰などは「」で示した。なお、上段の僧名欄に記入すべき通称や別名、職名などもこの欄で" " 印で示した。印は、撰述書や著書を示し、◎◎印はその中で現存するものである。経論の略名と具名の関係も例示すべきであるが省略した。

五 関係寺院 止住や示寂、また講学した寺であるが、単に得度をしたり、仁寿年間に各地に造塔して仏舍利などを供養したり碑名を記した寺も含む。スペースの関係で寺名を略したりしたものもある。今後、現地調査が可能となろうが多少なりとも資料になろう。

六 出典 『統高僧伝』中の巻数と篇目の略名、頁数。彼等の伝記資料は他に「仏祖歴代通載」「釈氏六帖」「六学僧伝」「高僧摘要」等があり、是非参照すべきであるが、この小論では省略した。

後記 大学院研究会年報第八号所載の拙稿、地論・撰論の学系譜は次の印刷上のミスがある。この紙上を借用して訂正をお願いしたい。

(1) 法存と道慎の下にある線を削除し、いずれも左の慧遠と曇延にその線を付す。(2) 靈裕の●の一つを◎に入れ変え、靈詢の●を削除する。(3) 説明文の最後、×□伽経を×楞伽経にする。

慧曠	慧順	慧曠	慧光	慧休	慧覺	慧海	慧遠	安廩	僧名
580 ~ 636	? 72	534 ~ 613	467 ~ 536?	548 ~ 645	531 ~ 620	550 ~ 606	523 ~ 592	507 ~ 583	生 卒
曇穩・波頗蜜多羅	道纂?・慧光	澄法師・真諦	仏陀禪師・勅那摩提 ・弁公・(道覆)	靈裕・明彦・志念・ 曇遷・道尼・勗・洪	慧遠	曇延	僧思・湛律師・曇隱 ・(法上・曇遷)	容公・慧光	師 事
涅槃・法華・三論・仁王・般若灯論序・華嚴・大品・撰論	儒学・涅槃・十地・地持・華嚴・維摩 "国都" (崔光の弟)	撰論・唯識・金鼓・光明・禅 「頂煖淹時、手屈二指」	四分・華嚴・涅槃・維摩・十地・地論・地持・勝鬘・遺教・ 温室・仁王般若・禅・玄宗論・大乘義律義章・仁王七誡・ 僧制十八条 「常願生仏境」 "僧統" (光統)	華嚴・毘曇・迦延・雜心・婆沙・撰論・四分	華嚴・十地・維摩・續義章	涅槃・禅業・撰論	四分・十地・地論・地持・華嚴・涅槃・法華・維摩・勝鬘・ 温室・寿・觀・撰論・起信・大乘義章 "洛州沙門都"影寺	老荘・十地・禅法・四分・勝鬘・華嚴・大集	行 履
江陵寺・清禅・延興寺	鄴下総持寺	江陵宗光寺・丹陽栖霞山寺・律行寺・興国寺	洛陽?・鄴大覺寺・ 嵩山少林寺	相州慈潤寺	并州武德寺・開義寺	静法寺・定州恒岳寺・ 熊州十善寺	沢州古賢谷寺・高都清化寺・興善寺・淨影寺	可州光融寺・少林寺・ 鐘山耆闍寺・天安寺	関 係 寺 院
2・訳・ 440 c ~ 441 c	8・義・ 484 b	10・義・ 503 b ~ c	21・律・ 607 b ~ 608 b	15・義・ 544 b ~ 545 b	12・義・ 520 c ~ 521 c	11・義・ 509 c ~ 510 a	8・義・ 489 c ~ 492 a	7・義・ 480 b	「統高」 卷数・篇名・頁

静琳	淨弁	淨業	静凝	淨願	志念	玄鑒	玄琬	警詔	慧誕	慧遷
565 ~ 640	? ~ 616	564 ~ 616	?	550 ~ 609	535 ~ 608	? 83	562 ~ 636	508 ~ 583	? 70余	548 ~ 626
曇猛・智首・曇遷・ (慧)覚・?炬	慧遠	慧遠・曇遷	曇遷	(法)准?	道長・道寵・慧嵩・ 明彦	慧遠	曇延・洪遵・曇遷	僧曠・真諦	曇延	慧遠
十地・華嚴・楞伽・思益・四分・地持・撰論・禪	孔墨荏老・禪・撰論・感心伝	四分・涅槃・地論・撰論	十地・撰論・止観(禪)	四分・十地・華嚴・撰論・雜心・涅槃・舍利・毘曇	智論・地論・毘曇・迦延・雜心	涅槃・十地・維摩	遺教・四分・撰論・法華・大集・楞伽・勝鬘・地論・中・ 百・仏教後代国王賞罰三宝法・安養蒼生論・三徳論	大品・新金光明・唯識・涅槃・中・百・維摩・成実・天王・ 仁王	涅槃・撰論	十地・涅槃・地持 “十地衆主” (開皇十七年、勅立五衆)
弘法・総持・神徳寺 明輪・妙象・至相・	淨影寺・衡州?岳寺	悟真・禪定・十力・ 景清・安州景蔵寺	興善寺	山 宝刹・慧日・潭州麓	渤海?・鄴都内城寺 (開義寺)・宝基寺	景業寺・沢州清化寺	延興寺・普光寺	建元・晋陵・白馬・ 竜光・開善寺	延興・杭州天竺寺	興善・宝光・弘博・ 大禪定(総持)寺
20 ・ 禪 ・ 590 a ~ 591 b	26 ・ 感 ・ 676 c ~ 678 a	12 ・ 義 ・ 517 b ~ c	26 ・ 感 ・ 675 b	10 義 ・ 500 a ~ 501 a	11 ・ 義 ・ 508 b ~ 509 b	15 ・ 義 ・ 542 a ~ c	22 ・ 律 ・ 616 a ~ 617 c	7 ・ 義 ・ 479 c ~ 480 b	26 ・ 感 ・ 671 b	12 ・ 義 ・ 520 b ~ c

僧猛	僧弁	曹毘*	僧範	僧達	僧粲*	僧昕	善慧	靖嵩	彫淵	神照
507 ~ 588	568 ~ 642	? ~ 601	476 ~ 555	475 ~ 556	529 ~ 613	?	587 ~ 635	537 ~ 614	544 ~ 611	?
?	智凝・道岳	真諦	雄安生・獻公・慧光	(勅那摩提)・慧光	?	慧遠	吉蔵	融智・道雲・道暉・ 道猷・法誕・法泰	靈裕	? 明智・(慧)休・許州 空
般若・十地	維摩・仁王・撰論・俱舍・中辺・唯識・思塵・仏性・無性	撰論 "清信士"	儒学・涅槃・法華・華嚴・十地・地持・維摩・勝鬘・小品	四分・華嚴・十地・地論・地持・維摩・禅法	十地・十種大乘論 "二十五衆第一摩訶衍匠、三国論師"	十地・涅槃・諸律?	法華・撰論	雜心・涅槃・地論・成実・撰論・俱舍・婆沙・迦延・舍利 弗・仏性・中辺・無相・唯識・異執・九識・三蔵・三聚戒 ・二生死等玄義	華嚴・地持・涅槃・十地・禅(止観)	四分・法華・勝鬘・撰論・雜心・涅槃・華嚴・成実・能断 金剛般若
寺 天宮・雲花・大興善	大禅定道場・弘福寺	江都白塔寺・安樂寺	鄴東大覺寺・顯義寺	延廟・同泰・洪谷・ 定寇・宮山寺	興善寺・総化寺	興善寺・毛州護法寺	除州彭城寺・禅定寺 ・驪山律梁寺	鄴大学寺・彭城崇聖 道場(前京兆王寺)	終南山至相道場	汴州安業寺
23 ・護 ・631 a	15 ・義 ・540 a ~ c	1 ・431 b 、 11 ・513 b	8 ・義 ・483 b ~ 484 a	16 ・禅 ・552 c ~ 553 b	9 ・義 ・500 a ~ 501 a	26 ・感 ・673 a ~ c	28 ・読 ・688 b ~ c	10 ・義 ・501 b ~ 502 a	11 ・義 ・511 b ~ c	13 ・義 ・528 c ~ 529 a

道基	顔道	道岳	智敷	智正	智閏	智光	智凝	智凝	智徽	智愷
577 ~ 637	?	568 ~ 636	? ~ 601	559 ~ 639	540 ~ 614	?	? 48	? 70余	560 ~ 638	518 ~ 568
靖嵩	慧遠	明曠・僧祭・志念・ 智通・道尼・波頗	智愷・法明・道・縁 ・希・堅	曇遷・彭淵	曇遵・慧光・弁公	道尼・居公?	(明及)・靖嵩	慧遠	慧遠	真諦
雑心・撰論・大乘章抄	涅槃・十地	詩易孝經・大論・僧祇・四分・成実・雑心・撰論・毘曇・ 俱舍・十八部論疏(智愷撰)	成実・金剛般若・婆沙・中論・撰論・俱舍・涅槃・真諦訳 経歴・曇林解涅槃疏积経後分? "智敷"	華嚴・撰論・楞伽・勝鬘・唯識	十地・華嚴・涅槃・四分・三論・小論? "智潤"	撰論 「安禪自節」	撰論	法華・十地・涅槃 「常思定慧」	涅槃・十地・地持・維摩・勝鬘	撰論序・俱舍(業品疏)・十八部(論)記・唯識 "慧愷"
寺 慧日道場・益州福成	浄影寺	感寺 顯明・大禪定道場・ 普光・明覚・監谷化	本州道場寺	勝光・仁覚・至相寺	慧日道場・禪定寺	興善・循州道場塔寺	禪定・弁才寺・彭城?	寺 関中静法・瓜州崇教	清化寺・東都内道場	揚都?・顯明・西陰
14・義・ 532 b ~ c	26・感・ 676 c	13・義・ 527 a ~ 528 c	1・訳・ 431 c ~ 432 a	14・義・ 536 b ~ c	10・義・ 502 c	26・感・ 671 b ~ c	10・義・ 504 c ~ 505 a	26・感・ 676 b ~ c	15・義・ 541 b ~ 542 a	1・訳・ 431 b

道哲	道寵	道慈	道慎	道奘	道宗	道積	道璨	道昂	道傑	道洪
564 ~ 635	?	? 75	? 65	?	563 ~ 623	568 ~ 636?	?	565 ~ 633	573 ~ 627	571 ~ 649
明及・曇遷・希・詢	雄安生・菩提流支	曇延	慧光	靖嵩・曹毘	道奘	洪湛・法朗・普興・明及・弁才・智凝	?	靈裕	真宝・何記・洪該・慧休・志念・法楞	曇延・(淨)願法師
論。四分・十地・地持・撰論・禪・百識觀門・智照自体・聞思	儒学・地論	涅槃・撰論	地論・涅槃 “国都”	地論・撰論・智論・十地・地持・成実・毘曇	智論・十地・地持・成実・毘曇	涅槃・地論・撰論・地持	撰論・華嚴・十地	華嚴・地論・禪 「常願安養……常祈心淨土」	涅槃・法華・成実・毘曇・撰論・四分・迦延・婆沙・十地・地持・坐(禪) 「思択念慧、深入縁起」	涅槃・地論
仁覺寺・大壯嚴寺	洛下?・鄴下?・堰角寺	蒲州仁壽寺	鄴下定国寺	青州道蔵寺・遠徳寺	道蔵・遠徳・慧日・勝光寺	遠行寺・宝昌寺・并州武徳寺・河東普救寺	勝光寺・許州弁行寺	相州寒陵山寺・報応寺	蒲州栖嚴寺	律蔵・総持・宝昌・弘福・慈恩寺
20・禪・588 c ~ 589 a	7・義・482 b ~ c	14・義・532 c ~ 533 b	8・義・486 a	11・義・512 a 、 15・545 c	11・義・512 a	29・興・695 c ~ 696 c	26・感・669 c	20・禪・588 a ~ c	13・義・526 a ~ 530 a	15・義・547 a ~ b

道尼	道憑	曇榮	曇延	曇衍	曇遵	曇遷	曇蔵	曇遂	弁相	宝安
?	488 } 559	555 } 639	511 } 588	503 } 581?	? 85	542 } 607	567 } 635	? 80余	558 } 627	?
真諦	慧光	靈裕	妙法師	慧光	慧光	慧栄・曇静・曇遵	閑法師	?	慧遠	慧遠
撰論	維摩・涅槃・成実・戒品(本)・地論・華嚴四分・禪	華嚴・律(四分)・地持・方等般若・坐禪・念誦	涅槃・華嚴・大論・十地・地持・仏性・宝性・勝鬘・仁王 "国都"	維摩・勝鬘・地論・華嚴・「誦念弥勒仏、声気俱尽」	維摩・勝鬘・地論・華嚴・「多遊念慧有得機縁」 "国都"	六経易道・涅槃・勝鬘・華嚴・十地・維摩・楞伽・起信・撰論・唯識・如実?・禅法	地持・十地	大論・唯識・撰論	十地・撰論・涅槃・毘曇	涅槃・十地
九江?・楊都?	貴郷郡・宝山・少林	韓州延聖寺・法住寺	延興・百梯・栖霞・雲居寺	鄴都?・洛州?・治州	鄴中?	曲李・賈和・鄴?・淨国・曲水・道場・慕聖・開善・勝光・禅定・鳳泉寺	旌善・光明・会昌・興善・化感寺	真寂寺・晋州法吼寺	少林・淨影・東都内道場・勝光・越州大禹寺	淨影寺・営州梵聖寺
1 432 a 13 527 b	8 義 484 b } c	20 禪 589 a } 590 a	8 義 488 a } 489 c	8 義 487 b } c	8 義 484 a } b	18 禪 571 b } 574 b	13 義 525 c } 526 a	26 感 672 b } c	12 義 519 c } 520 a	26 感 674 a } b

明誕	明馭	明及	法楞	法泰	法常	法上	宝儒	法護	宝巖	法侃
?	?	?	?	?	576 ~ 645	495 ~ 580	?	576 ~ 643	?	551 ~ 623
?	曇遷	?	志念	真諦	曇延・慧曠	道業・慧光	慧遠	志念・法彦・靖嵩	?	彭淵・曹毘
十地・地持・撰論	涅槃・撰論	撰論・十地・地持・地論	毘曇・十地・地論	撰論・俱舍・明了論	儒学・涅槃・成実・毘曇・華嚴・地論・撰論・維摩・勝鬘	(禪)・維摩・法華・涅槃・十地・地論・地持・楞伽・勝鬘 ・増一法数・仏性論・大乘義章・衆経録「頂礼慈氏如来」 “魏齐二代大統”	十地・涅槃	浄名・毘曇・成実・律部・撰論・中観・涅槃	十地・毘曇・成実	十地・地持・撰論 “法侃”
寺 勝光・鳳林(大興国)	無漏・禅定・崇梵寺	穎川?・宝昌寺	河間?	寺 楊都?・制旨・顕明	寺 大禅定・空観・普光	定寺)・少林寺 東都?・合水寺(修)	浄影寺・大興国寺	寺 内道場・天宮・化遠	仁寛寺・弘業寺	安楽・永安・興善・日巖寺
26・感・668 c	26・感・674 b } c	20・588 c 29・696 a	13・義・529 b } c	1・訳・431 a } b	15・義・540 c } 541 b	8・義・485 a } 486 a	10・義・507 a } b	13・義・530 b } c	26・感・674 b	11・義・513 a } c

明芬	融智	靈幹	靈璨	靈詢*	靈潤	靈裕
?	?	535 ~ 612	549 ~ 618	482 ~ 550	?	518 ~ 605
耶舍	法上	曇衍	慧遠	慧光	靈璨・道奘・志念・ 弁相・慧定	明宝二禪師・道憑・ 法上・道隱・嵩林二 師・安遊・栄
十地・(禪)	涅槃・地論	毘尼・十地・地論・華嚴・ 「常依經本、作蓮華藏世界海觀 及弥勒天宮觀」	十地・涅槃	成実・涅槃・(四分・地論)・維摩・ 并州僧統・国都	觀音・涅槃・撰論・十地・小論・維摩・ 勝鬘・起信	念仏、相継達明想” “靈裕菩薩” 孝經義記・三行四去頌詩評并雜集等・ 大乘義章「静慮口縁 寺誥・十怨十志頌・齊亡消日頌・ 觸事申情頌・寺破報心記・ 序・大小同異論・舍利目連伝・御衆法・ 光師十德記・僧制 衆經宗要・識經・体式・受菩薩戒法・ 戒本・首尾注・華嚴等經論 成実・毘曇・智論・往生論・上・下・ 生・聖跡記・仏法東行記・ 維摩・勝鬘・鴛掘・寿・觀・仁・王・ 毘尼母・遺教・雜心・ 儒学・十地・四分・華嚴・涅槃・大集・ 般若・地論・地持・
興善寺	鄴大学寺	大莊嚴・浄土・興善・ 大禪定道場・漢王寺	興善・浄影・長寿・ 景浄・大禪定寺	燕趙?・并州?	興善・浄影・弘福寺・ 藍田化感寺	趙都応覚寺・洛州靈 通寺・相州大慈寺・ 興善寺・鄴西演空寺・ 宝山靈泉寺
26 ・感 ・669 c	10 ・義 ・501 b	12 ・義 ・518 a ~ c	10 ・義 ・506 b ~ c	8 ・義 ・484 c	15 ・義 ・545 b ~ 547 a	9 ・義 ・495 b ~ 498 a